

質問書

副学長 東山紘久殿

以下の質問に対して、責任ある当局者の回答を求めます。

1. 説明会開催までの経緯について

1-1. 計画が公開されるまでの経緯について

(1) キャンパスアメニティ計画の一環である本部構内北西門改善計画が学生に知らされたのは、9月30日の副学長による情報公開連絡会でした。このように、計画に予算が下りる直前の時期まで学生に一切の情報公開が行われなかったのはなぜですか。

(2) キャンパスアメニティ計画及び本部構内北西門改善計画の計画・立案過程においては、学生等当事者の意見聴取を行いましたか。行ったのならその手段やどのような意見があったのかを明らかにしてください。

(3) キャンパスアメニティ計画が発案された時期、計画・立案に関わっている組織、予算規模とその出所、計画の大学内での決定・承認過程の状況について明らかにしてください。

1-2. 説明会や話し合いの場の開催要求への対応について

以下の経緯に関して、そのように対応した理由と、そのような判断が妥当であったと現時点において考えているのかを、それぞれ回答してください。

(1) この計画について、学生側は、2004年4月の副学長確約[3]の1に基づく要望書やその他の手段によって、説明会や話し合いの場を設けるよう、再三に渡って要求を行ってきました。しかし、東山副学長は公開の話し合いを行うのを一貫して拒否していたことに関して。

(2) 当初から、学生側は、この計画について精通している計画責任者が、直接学生に対応するよう求めています。しかし東山副学長はこの計画の詳細について把握していないにもかかわらず、「話し合いに応じるとしても、計画の責任者が直接対応する必要はなく、学生対応の責任者である自分だけが話し合いを行う。」としていたことに関して。

(3) 大学側は、2回に渡る学生部発行の文書（各サークルに配布）やウェブサイトによって、計画について学生に十分に説明できたとしていたことに関して。

(4) 反対している学生を目の前にしながら、ウェブサイトに質問がないことをもって、この計画は承認されたと東山副学長が述べていたことに関して。

※これに関連して、これまでどのような意見がキャンパスアメニティ計画のウェブサイトが届いていますか。また、現時点でのアクセス数は何件にのぼっていますか。

2. 工事計画について

2-1. 計画の経緯等について

(1) 計画はどのような種類の予算に基づいたものか明らかにしてください。なお、回答に際しては、当該の予算の、大学の全予算における位置づけ、および他の予算との関係を踏まえてください。

(2) 計画の立案経緯について詳細に明らかにしてください。その際、計画立案の時期、計画の発案者、計画に影響を与えた学内外からの要望や苦情等の内容、などに触れてください。

(3) 当初の計画から、石垣を積み直すことに変更した経緯を明らかにしてください。

(4) ウェブサイト上に存在する図面よりも詳細な設計図を提示してください。

2-2. 計画の根拠・理由について

(1) 計画者の考える現状の諸問題点について、その判断の具体的な根拠を逐一明らかにしてください。特に、ウェブサイト上の「現状の問題点の整理」の「裏門から図書館前までの道路等は・・・」の項で上げられている点について、具体的な数値等を上げて、判断の根拠を示してください。

(2) 上記の問題点の解決のために、このような計画を選択することの具体的な根拠を示してください。その際、この計画が問題解決に及ぼす効果、および、この計画以外の解決法の可能性についても言及してください。

(3) 以上二つの質問に対する回答を踏まえた上で、この内容(予算規模を含む)の計画をこの時期に実行する必要性・必然性についての見解を、改めて総合的な見地から示してください。

2-3. 立て看板による宣伝活動等自主活動への影響について

立て看板の取り扱いについて、以下の質問に回答して下さい。

(1) 現在、百万遍の石垣は今出川通・東大路通に対し斜めに設置されています。このため、百万遍の石垣に設置した立て看板は、どちらの通りを通っていても見ることができます。ゆえに、立て看板によって、学内のみならず地域社会全体に情報を発信するにあたっては、絶好の場所です。しかし、計画の図面では、その石垣がほぼ今出川通と並行になっており、またプロムナードに植樹が行われます。そのため、石垣の立て看板の宣伝効果は著しく低下し、宣伝の対象も京大内部の人々に限定されてしまいます。計画で石垣の積み直しを決定する際に、このことも考慮されていきましたか。

(2) 「石垣を積み直し、そこを立て看板設置スペースとする」とウェブサイトで紹介されています。これは、そこ以外に立て看板を設置することを禁止する(もしくは、立て看板をそこに誘導するという考えがある)という趣旨を含んでいますか。

(3) 石垣の積み直し方・積み直した石垣周辺の整備のしかたによって、立てられる看板のサイズ・形に制限が加わってしまう可能性はありますか。

(4) 東山副学長が、MBS制作の番組の中で、「工事後の石垣周辺には、ボルト等を埋めて立て看板を立てやすくする」と発言していましたが、そのボルトとはどのようなものですか。

※なお、[2-3]の各項目への回答に際しては、京都大学のウェブサイトに掲載されている、尾池総長・東山副学長の以下の談話を踏まえてください。

尾池総長:「立て看板は京大の文化です。思想性のある立て看板は他大学には無いし、禁止することはないと思っています。工事にあたっては、景観を維持するために、コンクリートではなく現在の石垣を保持した形ですすめるよう指示しています。」

東山副学長:「立て看板は京大生の大事なコミュニケーション手段。無くそうというつもりはありません。近頃、倒れそうで危ない立て看板がみうけられます。通行人への危険性も考慮してほしいと思っています。」

2-4. 「交通安全」と「バリアフリー」について

ウェブサイト上において「交通安全」「歩行者優先」「バリアフリー」としている点について、以下の質問に回答してください。

(1) 通学者の相当数にとっては自転車の利用は必要不可欠ですが、自転車は歩行者と少なくとも同等に優先されるべきと考えますか。

(2) 「バリアフリー」とはどのようなものと考えていますか。

(3) 「バリアフリー」とされている部分は、障害を持ちながら本学に関わろうとする当事者に対して、対等の話し合いの窓口を保障し、かつ全学的な人権問題として取り組んだ上での計画案ですか。

2-5. 百万遍交差点「オープンスペース」構想について

ウェブサイト上において、「百万遍交差点にオープンスペースを設け広く開かれた大学、将来、情報交流、公開公報の象徴となるスペースとする」としている点について、以下の質問に回答してください。

(1) 「オープンスペース」の具体的な計画案はどのようなものですか。

(2) 同計画は、例えば吉田南総合館北側にみられるような、過去の同様の改修工事についてのしかるべき自己評価・反省教訓を踏まえての計画案ですか。

2005年3月25日

本部構内北西門改善計画を考える会

Tel. 075-753-2722 (呼)

E-mail. jonin@kais.kyoto-u.ac.jp